

警城時報

發行日四十 編輯兼發行 印刷所警城時報社 發行所警城時報社 一部金貳圓 一月金卅圓 廣告料一行十四字卅五圓 日刊（日曜祝祭日除）日休刊

戦線實に一千里！

遂に徐州一番乗り

滿堂感激 兩角大佐實戰談

吾等の郷土部隊長兩角大佐、何万の敵を斃し屍を踏ん 佐の戦況報告講演會は昨報ので進軍した、此處で一寸中述 如く十三日午後二時半から市たいことは、兩角部隊は馬馬 公會堂に開演、吾等の部隊長成で、車輪部隊が道路を進軍す の風貌に接すべく定刻前に詰るのに吾が部隊は道無き處に道 めかけた獲獲三千名、文字をつけ、山岳地帯から呼道、泥 通り立錐の余地無い盛況振り 士を押し分けて進軍、これが 定刻青沼市長開演を述べ、の曉天から日没まで行軍しても 兩角大佐を紹介、征旅にのび直進にして一日僅か三里位死 した山羊を中支隊線に眠る部り進めず、苦戦を続けたが支那 下の雲に捧げ、無事に遶つた 四百余州の内最も肥沃な地を 部隊長は一旦演壇から降り、 聽衆一同に對し「忠勇無双天 下無敵の郷土部隊を指揮した 兩角であり、一線の將兵 は統後の皆さん方の熱誠に溢 れた支援に感激して居ります 部下と共に再び故國の土を踏 まない覚悟で戦線へ臨みまし たが、命令とは云へ部下將兵 一同を戦地に殘し一人殘骸を さらしたることは遺憾に 堪へません、皆さんの御子弟 御良人、御親父方を深山死な せたことは誠に申譯ありませ ん、今此處に戦況と所懐を述 べたいと存じます」と誠意こ めて挨拶を述べ登壇

徐州 戦は彼我の雄雄を決 する大會戦で、我が 軍は日に余る敵を包圍して殲滅 するの作戦を執り、吾が部隊は 奉天戦の第三軍の如く百里余の 大迂迴行動を開始睡眠時は二 日僅か三時間位で休養の暇も無 く、夜を日に次いで北へ北へと 進軍し、蒙城、永城を抜い て〇海線を遮断、疾風迅雷の如 く吾が軍が早かつたので敵軍が 味方と感惑して行軍に迷ひ込 んで来る、甚しかつたのは、支 那將校が應援軍と思つて短しに 獨り山と臥龍山の間を進むに 敵の包圍に陥り相當犠牲を覺 悟したところ、徐州方面に烈風 吹き荒れて黄塵を飛ばし、敵も 味方も見え無くなり進行を容 易にした、神風を起して頂いた 天助です、霸王山を陥したと 山頂、中腹共敵の強固なベトッ トチカで固められ、山には樹 木無く行軍容易ならざる陣地だ したが、吾が部隊は少しも恐れ ず前進、後方から見ると國旗を 先頭に旗のやうに旗々進み、 敵の手榴彈に國旗も兵も爆煙に 包まれる「忠勇な兵を又一人や 一人と感したことは、吾等の或 る將校が上海戦で左腕、徐州で 右腕を大負傷して尙歸還を背ぜ ぬので「君は充分働いたから選 ばれた」と母から来た手紙を 見て下さいと母から来た手紙を 示された、その手紙に「お前は 右と左の腕をやられたが、まだ 丈夫な二本の足がある、その足 で必ず漢口まで行け」と激励し てあつた、この統後の支援ある ため一線の將兵は強いのです

漢口 は湖水に阻まれ、理 想的な防禦地だが、 この湖水のため敵は反つて逃 げ場を失つてゐる、攻める前 に逃げ場を考へる支那兵は前 面防禦に大別山ラインを選ん だ、山の標高八百米から千二 百米、高くないが約三十里 に亘つて續き一ツツの山が 強固な陣地だ、部隊は例に依 つて道なきところを攻撃前進 九月十六日商城を進發して十 月二十五日金山突破するまで 三十里の道を四十日を要し、 一日一里出られなかつた、こ の進軍で部隊の心理なのはマ リヤだつた、四十度以上の上 熱で兵はバタ／＼寝れる、罹 病者は銃を戦友に託し戦備帽 の上から鉢巻を噛み喰ひし ばつて進出する努力は神々し いと思つた、食糧がなくて唐 黍だけ喰べて歩いたこともあ つた、兵達はこれをハローモニ カ休養と呼び、サツマ芋を喰 べるとおなら休養と云つて毎 日おならを運發して即らかに 進む

先づ 上海附近の戦闘は全 體を符子嶺の如く縦横にめぐら し、井戸型の目に巧妙なトッ チカ陣地があつて、攻めると 兩側から撃たれる、北面は揚 子江で絶對安全で反對側は 界の主都上海があつて攻撃す るに苦戦であつた、吾等の 攻めた老陸宅、馬家宅は全 てに日章旗を樹てるまでの感奮的 尺の曲日にも當る重要地点で 大場鎮、〇北の戦闘を容易に 折返し、茶雨續きで散兵壕は 濡れ鼠と成つて服を捨て裸々 激激的な場面が繰り返されて 戦つた、細く長い一本の道 戦つた、細く長い一本の道 戦つた、細く長い一本の道

けり大舉上京

平小鐵道路線問題で 平市の有志十余名が 平小鐵道片濱經由陳清のため市動を行ふ旨 内各戸から七千余名の署名調印 を取纏め申した平市の有志 關内縣議、大嶺、多田井、鈴 木、市議、井上貞治郎、榮四倉藩の本年度いわし揚操漁業 田德二、柏原光太郎、馬場武は來月十八日で終了するが、現 太郎、駒木忠忠、神谷兼次在までの漁獲高五十四萬八千九 百二十七圓、最高は長谷川西次 郎 諸氏は陳清書を携へ十四日午 前五時十五分平發列車で上京し 千圓に達したので去る十二日乗 一、一行は同日午前十時半鐵道 省で片濱町より成る期成同盟 會代表と落合ひ星代議士の案 關關係各方面に對し最後の猛 進の四十八社である

初賣出しは廢止

四倉町商店で申し合せ

四倉町商店より成る商業聯合會部運轉手齋藤忠次郎(一八)は十 日で縣當局の品目付賣出し禁止四日午前十時半平區で禁錮六ヶ 月二日此種協議の結果来る十月の判決言渡された

郡北町村 事務研究

一町四ヶ村

郡北町村、石城郡北部 事務研究 一町四ヶ村 一、納税奨励に關する件 二、町村吏員優遇に關する件 三、納税奨励に關する件 四、町村吏員優遇に關する件 五、納税奨励に關する件 六、町村吏員優遇に關する件

生活改善講演

大野村

では生活改善研究會として知ら れる東京新興生活館主事中山朝 雄氏を招き十三日第一小學校、 十四日第二小學校で時局對處生 活改善講演會を開いた

轢殺運轉手

禁錮六月月言渡

去る元日の夜内郷村地内國道 で同村農夫先崎馬三郎(五八)を 轢殺逃走した湯本町坂本自動車 員に對し禁錮六月月言渡

不良易者檢舉

若手齋藤有市生れ前科二犯易者 佐々木仁右(四五)は去る三 日夜小川村最上層旅館で同宿の 郡山市大明山半賣賣業大久保彌 一(四六)と喧嘩し胸部に二週間

銀紙獻納

市内田町でガ なる堂の娘さん達は銀紙五百匁 を集め十四日市役所へ寄託した

宿料踏倒し

秋田縣土崎 港町生れ東京市下谷區人谷區一 六九中尾フ、ホーム工場職工場 倉町新町某旅館に宿泊し宿料五 圓五十錢を請求されたところ該 中無一文で四倉藩に突き出され

漁夫の悪事

北海道 生れ双葉郡久の濱町東町白土春 吉さん方漁夫輪船佐市(三八)は 去る八日午後二時半頃四倉町竹 細工業須藤昇方から現金二十圓 を盗み遊具に毀消したこと發覺 十二日四倉署に檢舉

天氣豫報

今晩は北の風雨後曇 明日は南の風後雨模様

商店屋釜

電話九・九九番

一日一言

植電と福電の合併問題

植田水電と福島電燈の合併問題は無茶な合併案とも思はれないのは、電力統制案實施に關聯してあるが、本紙既報の如く逡巡省の世評に傳へられる如く監督官廳漸に依つて遂に不許可の指令が當初反對意見を提示してあるに到らし、同問題もこれで解消す關係から所謂「役人の面子」の如何のやうに見えるが、實際はたゞの許可を與へなかつたとすれ不許可に依つて生ずる植田電氣は、民衆の繁榮を阻止するの行と福島電燈の關係がどうなるか爲で甚だ遺憾に堪へざる處である。兩社今後の處置が注目されてゐる。

新文具御案内


マルトモ書店入荷品
書道用練習筆
長鋒快適 (古梅園製)
一號より八號まで
價段十八錢より一圓四十錢迄
華心 (仙臺玉光軒製)
精華 (同)
朝陽 (鈴木翠軒先生選)
各種珍筆より一圓迄

書道用墨

入木道 (古梅園製)
一號用 各種 拾錢より
小學生用 各種 二圓迄
紅花墨 (古梅園製)
三十五錢より一圓四十錢迄

植田水電が何故に仙遊局の意見を容れず日本電力と合併せず福島電燈に身を賣りしは、内部的事務は金城社長の胸にあることと推察され、推察され、植田水電の株は合理的に殆んど八割まで福島電燈に買収され、今日では事實上福島の經營に依つて支店のやうな形を爲し、監督官廳が不許可の断を下しても今更方向轉換の道がなく現状を維持するより致し方あるまいと思ふ、不許可の理由は詳らかでないが、恐らく福島電氣上に原因することであらう、然し福島側の計劃に依れば近い將來に於て充分調整の可能性を有し、全然

用應氣電力強
効特に痛經神



御婚禮御着附
パールマント
ウエイト
和洋結髪
オゾン美顔術
御染髪洗毛術
御爪術
平市駅前
水野化粧院
電話(六七八)營業所
五二五―自宅

かまぼく製造
折詰仕出
お惣菜さつま揚・吉原揚
平市一丁目
不為真
配達人至急入用
年齢不問、住込の事
電話一四二番

電話五九二番
に獲りました
レストラン
サロ
平市銀座街

謹告
この度皆様の御勤めにより家政婦會を設け會員を派出致さるることになりましたから何卒御利用下さいませ
◎會員の業務
一、お手不足な御家庭のお手傳
一、病院等の患者への附添へ
會員募集
まじめでよく働ける御婦人を募集します。
會員御希望の方は御來談下さい。(住込の便もあり)

磐城家政婦會
平市五丁目産婆猪狩かく方
電話四九一番

冷凍魚
鯛 金頭 帆立貝
エビ イカ 貝類 其他
日本水産特約(電話三六三三六)
卸賣平製水會社
〒尾箱分米代理店下 印魚問屋
四丁目(電話五二二)

産科・婦人科
平市田町
井坂醫院
◎入院隨時
電話五五九番

公債・債券
質物一般
三井質店
平市四丁目
電話六〇六番

料理 天婦羅 月 平 三
天婦羅 月 平 三
平市古鍛冶町



味噌と油
鹽屋
電話一營業部専用一〇番
電話二一般用二七番
振替東京一九七五五番

鑄物の代用品生る
セメント製マンホール 金貳圓各種
同 風窓 網金四子各種
平市南町二〇
發賣元 野内商會
電話一一番
燒土管 在庫豊富

小兒科
平市南町
志賀醫院
(入院ノ需ニ應ズ)
電話一六二番